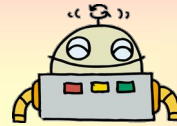


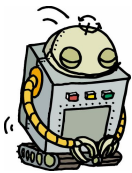


# 博士とロボの



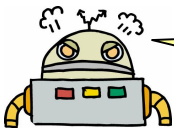
稚内市財政の状況 (番外編)

## 公債費負担適正化計画って何？



皆さん、はじめまして。ボクはロボットの「ロボ」と言います。  
 今日は皆さんと「稚内市の財政状況 (番外編)」といたしまして、「公債費負担適正化計画」について、一緒にお勉強していきたいと思ひます。  
 それでは、僕たちに「公債費負担適正化計画」についてお話をしてくれる方を呼んでみたいと思ひます。  
 「博士！ 出番ですよ！！ ん！？ 来ないなあ・・・。博士、博士ー！！」

おお・・・、すまん、すまん。最近ちと物忘れが多くてのお・・・。  
 それで、今日は何じゃったかな？



もう、博士！！ 今日には稚内市の「公債費負担適正化計画」について、お話ししてくれる約束だったでしょ！！

おお、そうじゃった、そうじゃった。  
 ゴホン・・・ン。それでは改めて、皆さん、はじめましてじゃ。  
 ワシが、博士じゃ！！



.....。

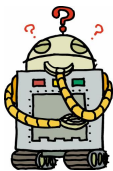
それでは、稚内市の「公債費負担適正化計画」について説明するかのお。  
 ところで、ロボは「公債費」という言葉を耳にしたことはあるかのお？  
 ん！？ そうか・・・、やはり耳にしたことがないか。  
 では、まず「公債費」について説明せねばならんのお。



「公債費」を簡単に説明すると、地方公共団体（国、都道府県、市町村など）が事業を行うために借り入れたお金、このことを「地方債」と言うんじやが、当然、借りたお金（地方債）は返さなきゃならんじやろ。この返すお金のことを「公債費」と言うんじや。

たとえば、道路や公共施設などの建設を行う場合、建設に必要なお金（財源）を調達しなければならないが、それは、市民の皆さんの税金だったり、国や道からの補助金だったりするんじやが、これらの施設を建設するにあたり、10年、20年の長期にわたって使用できるものであれば、その年の市民の方々の税金だけに負担を求めるのではなく、10年、20年後の市民の皆さんにも、万遍なく負担してもらえるよう、借り入れをしてお金を調達する（地方債を発行する）ことが法律で認められているのじや。

つまり「公債費」とは事業を行うために調達した地方債（借入金）の償還（返済）に充てたお金のことを言うのじや。



へえー、「公債費」って借入金の返済に充てたお金のことをいうのか。ところで博士、「公債費」と「公債費負担適正化計画」とどう結びつくの？

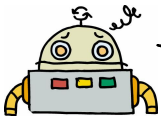
ロボはせっかちさんじやのお。よいか、「公債費」とは、言わば過去にしてきた借入金のバロメーターの様なものじや。この「公債費」の額が大きくなると、他の事業予算に大きく影響を与えることになりかねんのじや。

通常、地方公共団体の予算とは、歳入（収入）と歳出（支出）から成り立っておるんじやが、両者は常にバランス（歳入予算と歳出予算は同額）を保っている。その年に入ってくるお金（歳入予算）は決まっているから、歳出予算に分類される「公債費」の額が大きくなることにより、「公債費」以外の歳出予算に影響を与えることになるのじや。

と言うことは博士、「地方債」で資金を調達しすぎると、後年度以降の「公債費」の額が大きくなってしまふから、後の事もよく考えて上手に「地方債」を使う事が大切なんだね。

そういう事じや。そこで、「公債費」の額が予算規模（一般財源等）に占める割合を算出した「実質公債費比率」という指標が作られたんじや。

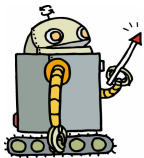




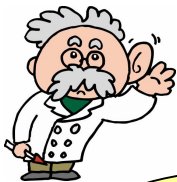
「実質公債費比率」って何？

この「実質公債費比率」とは、先ほども説明したように予算規模（一般財源等）に占める「公債費」の割合を数値によって表したものであるから、地方公共団体ごとの予算規模（一般財源等）に対して、「公債費」の額が適正かどうかを判断することが出来るわけじゃ。この数値が高ければ、予算規模（一般財源等）に占める「公債費」の額が大きくなるし、逆に、この数値が小さければ、予算規模（一般財源等）に占める「公債費」の額が小さいと言えるんじゃ。

この「実質公債費比率」が18%未満であれば、予算規模（一般財源等）に占める「公債費」の割合は適正と言えるじゃろうなあ。



ねえ博士、じゃあ「実質公債費比率」が18%以上だと「適正ではない」ということになるの？「それと・・・。」



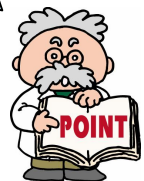
んっっ・・・どうしたんじゃロボ、何でも言ってみなさい。

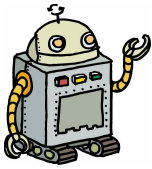
もしも、「実質公債費比率」が18%以上になったとして、この数値が「公債費」の予算規模（一般財源等）に占める割合の適否を判断するためのものだとすれば、何の制限もない以上、「公債費」の額が増え続けていくこともあるということなの？

うーむ、良い所に気が付いたのお。おまえさんの言うとおりじゃ。確かに何の制限もなければ、際限なく「地方債」を使い、「公債費」は増え続けていく一方じゃろう・・・。

がしかし、心配するなロボ、ちゃんと制限は設けておるぞ。

「地方債」を使う（発行する）ためには国・都道府県との「協議」が必要なんじゃが、先ほどから説明している「実質公債費比率」によって算出された数値が18%以上になった地方公共団体が「地方債」を発行する場合、「協議制」から「許可制」に変わり、「公債費負担適正化計画」の策定を求められるのじゃ。また、数値が25%以上になると、一定の「地方債」の発行が制限されることになるのじゃ。





それなら、僕が心配していたように「公債費」の額が増え続けていくということはないんだね。

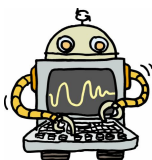
ところで博士、具体的に「公債費負担適正化計画」ってどういう内容の計画になっているの？

そうじゃな・・・、「公債費負担適正化計画」とはのお・・・、

- ① 財政状況の現状分析
- ② 「実質公債費比率」が高い要因の分析【原因の解明】
- ③ 「公債費」や「公債費に準じるもの」、また「実質公債費比率」の算出に必要な数値の将来推計【実質公債費比率の推移の把握】
- ④ 「実質公債費比率」を改善するために必要な「歳入歳出の見直し」に係る具体策や、「地方債」の発行方針【改善策の検討・方針】などを定めたものなんじゃ。

「公債費負担適正化計画」を定めた地方公共団体は、自ら策定した「計画」を基にして、「実質公債費比率」の抑制や計画的な「地方債」の発行に努め、健全な財政運営を行っていくことが必要なんじゃ。

今、盛んに言われている「地方分権」という考え方からも、「地方財政」の自主・自立性の重要度が高まっていることは言うまでもなく、「公債費負担適正化計画」もその一環といえるじゃろう。



博士のおかげで、僕も「実質公債費比率」や「公債費負担適正化計画」のことが理解できました。

博士がお話してくれた内容を踏まえ「稚内市の公債費負担適正化計画」を分析してみたいと思います。

ジジ・ジジ・・・カチカチ・・・ん！？・・・カチ・・・ガチャ・・・  
ジー・・・カチャ・・・ジジー・・・分析終了シマシタ・・・。

稚内市の「実質公債費比率」は18・6%（3カ年平均）で、比率が高い要因としては、「病院事業」や「下水道事業」の「準元利償還金」に対する繰出しが多額になっているためである。推計によると、平成19年度以降には同比率は18%を下回り、緩やかに減少していくものと思われる。また、「財政健全化プラン」や「集中改革プラン」に基づき、「歳入確保対策」や「歳出削減」を図るとともに、投資的経費の計画的な事業執行のもと、健全な財政運営に取り組んでいく。となっています。

ほほう、さすがじゃのうロボ、まさにそのとおりじゃ。  
さすがは、ワシの創ったロボットじゃ。ワシは鼻が高いぞい。

「実質公債費比率」とは「公債費」の予算規模（一般財源等）に占める割合を数値で表したものと説明したと思うが、この「公債費」には、「公債費に準じるもの（債務負担行為）」や「公営企業会計（病院事業など）の公債費（準元利償還金）に対して繰り出したもの」も含まれるんじゃ。

ロボが指摘したとおり、稚内市の場合「病院事業」や「下水道事業」の「準元利償還金」に対する繰出しが多額になっており、両事業ともに平成15年度から平成17年度までの3カ年平均で、3億円超にもなっている。

ただし、将来推計においては、「公債費」の減少に伴い「実質公債費比率」は緩やかに減少していく見込みとなっている。

また、計画期間の財政状況等改善策は以下のとおりじゃ。（一部抜粋）

【歳入】 ① 未収金対策強化

② 使用料などの見直し

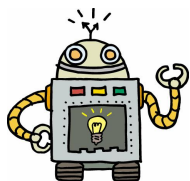
【歳出】 ① 給与制度見直し、定員の適正化

② 外部委託の推進

③ 公営企業会計の経営健全化

【地方債】 投資的経費（建設事業等）の優先度を検討し、計画的な予算措置を講じ、費用対効果を十分に検証し、地方債の発行を最小限にとどめる。

以上が、稚内市の「公債費負担適正化計画」の概要じゃ。

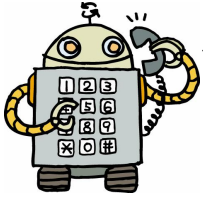


稚内市には、市民の皆さんが安心して暮らせるよう、着実な計画の実施と、健全な財政運営に努めていただきたいですね、博士。

そうじゃな。自治体とは、そこに暮らす人々がいるからこそ存在し、その存在価値は、人々が安心して心豊かな暮らしが出来るかどうかということかもしれんなあ。

んーん、「自治」とは何とも奥が深いのお・・・。





「トゥルルルルルル・・・(電話呼び鈴)」

もしもし、こちらは「博士とロボのなんでも研究所」ですが・・・。  
え！？博士待ち？・・・少々お待ちください。  
博士、博士、今日「学会」での研究発表の日ではありませんか・・・。

は！まずい！すっかり忘れておった。  
ロボ、すぐ行くから皆に待っているよう伝えてくれ！！



でも、博士、最後に皆さんに挨拶  
しなくていいんですか。

おお、そうじゃった。皆さん、  
それではさよならじゃ。

ドウモアリガトウゴザイマシタ。

どうもですじゃ。

